



一般社団法人京都府訪問看護ステーション協議会

平成30年度 在宅療養児支援連携研修報告

テーマ「やってみようよ！小児訪問看護」

日時

平成31年1月26日(土)

13:15~16:40

場所

京都市国際交流会館

テーマ

- ・在宅で療養している医療依存度の高い障害児を地域で支えるために、小児訪問看護の知識や技術を磨き、実践に活かす。
- ・在宅で療養する医療依存度の高い障害児を地域で支えられる訪問看護ステーションが増える。



高橋 美詠子氏

京都市中丹東保健所
保健室 健康・母子保健担当主査

今年度は、京都市国際交流会館をお借りして開催しました。
まず、京都市中丹東保健所の高橋主査より地域における在宅療養児支援の取組について、医療的ケア児の現状と保健所での事業内容、またいくつかの事例を通して在宅での医療サービス、地域での取り組みが紹介されました。
病院をはじめ訪問看護や関係機関との連携により、在宅療養児とご家族(母親・きょうだい)が支えられ、改めて訪問看護としての役割が再認識できました。



山岡 玄馬氏

はなちゃん薬局 開設者



次に、薬剤師であり、障害児を持つ父親でもある山岡玄馬氏の貴重なお話を聞かせていただきました。

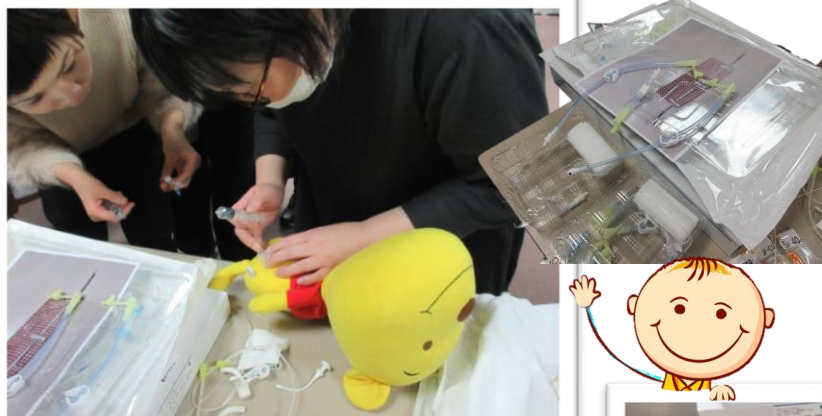
出生時の状態から現在に至るまでの思いや考えを父親としての生の声、薬剤師としての目線で家族間の連携、関係職場・多職種との連携の大切さを感じる内容でした。

とても分かりやすく、また楽しくお話していただき、会場からも笑い声が上がっていました。



最後に実際に小児の訪問看護をされておられる訪問看護ステーションとくらの馬場看護師より小児訪問の実際を学びました。

実際の訪問時の動画を用いての説明で、イメージしやすく、とても楽しく看護されている雰囲気も伝わってきました。



馬場 いく子氏

医療法人一心会

訪問看護ステーションとくら

看護師

実際に使用されている胃ろうチューブ、気切カニューレのサンプル、人形を使っての実演もあり、見て・触れての講義で、うんうんと頷きながら聞かれている方も見受けられました。



同時に、実際に小児に使用されている人工呼吸器の使用法等、詳しい説明をメーカー担当者より聞くことができました。



平成 29 年度訪問看護事業実態調査においても小児を受け入れている訪問看護ステーションは京都府内事業所の半数以下と少ないため、こういった研修を利用し、少しでも受け皿が増えればと思います。

雪が降り積もる寒い中、皆さまお疲れ様でした。

(記事: 広報委員会)